

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-204255

(43)Date of publication of application : 05.08.1997

(51)Int.Cl.

G06F 3/023

G06F 3/023

H03M 11/10

H03M 11/12

(21)Application number : 08-010009

(71)Applicant : SHIBAURA ENG WORKS CO LTD

(22)Date of filing : 24.01.1996

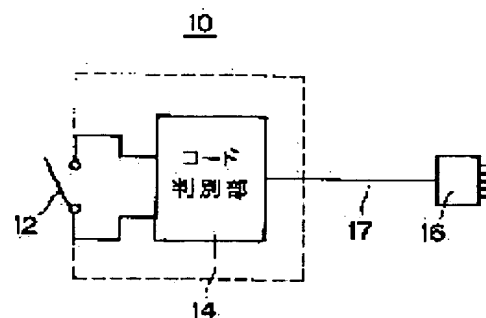
(72)Inventor : TANABE KIYOHIO

(54) INFORMATION INPUT DEVICE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a small-sized information processor where a character, etc., are easily inputted by specifying a character code by means of the combination of length in open/close time at an input contact and outputting the character code.

SOLUTION: One input contact part 12 is provided on the upper surface of an information processor 10 which is almost the same as a mouse used in a personal computer, etc., in size. A code discriminating part 14 is connected to the input contact part 12 and a connector 16 for outputting the character code is connected from the code discriminating part 14 with a connecting line 17. The code discriminating part 14 specifies the character code by the combination of the length of open/close time in the input contact part 12. In this case, when an operator inputs a Morse code, the character code in accordance with the Morse code is outputted. That is, the operator inputs the four signals like normally sending the Morse signal by one finger so that the normal character code are outputted from an information input device 10 to the personal computer.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-204255

(43)公開日 平成9年(1997)8月5日

(51)Int.Cl. ⁸	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F 3/023			G 0 6 F 3/023	3 1 0 J
	3 4 0			3 4 0 Z
H 0 3 M 11/10				
11/12				

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 3 頁)

(21)出願番号 特願平8-10009

(22)出願日 平成8年(1996)1月24日

(71)出願人 000002428

株式会社芝浦製作所

東京都港区赤坂1丁目1番12号

(72)発明者 田部 聖裕

福井県小浜市駅前町13番10号 株式会社芝浦製作所小浜工場内

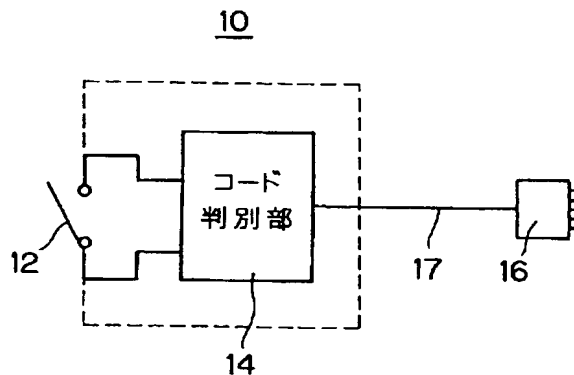
(74)代理人 弁理士 葛田 瑋子 (外1名)

(54)【発明の名称】 情報入力装置

(57)【要約】

【目的】 本発明は、パソコンに対し文字コードを容易に入力することができる情報入力装置を提供する。

【解決手段】 操作者が操作するための入力接点部12とこの入力接点部12の開閉時間の長短の組合せにより文字コードを特定し、この特定した文字コードを出力するコード判別部14とよりなる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】一または複数の入力用接点を有した入力手段と、

前記入力手段の入力用接点の開閉時間の長短の組合せにより文字コードを特定し、この特定した文字コードを出力する文字コード特定手段とよりなることを特徴とする情報入力装置。

【請求項2】前記文字コード特定手段は、前記入力手段に入力されたモールス符号から文字コードを特定することを特徴とする請求項1記載の情報入力装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、パソコン等に用いられる情報入力装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】最近、パソコンが広く家庭に普及し始めている。このパソコンに情報を入力する手段としてキーボード及びマウスが用いられている。

【0003】しかしながら、キーボードは操作するキーが多く、目的の文字キーを探すのが困難でありとともに、操作に要する指数が多くなり、使いこなすためにはある程度の熟練が必要である。また、キーボードの寸法が大きく、机に置いた場合にその占有面積が大きくなる。さらに、視力障害者は、キーボード上のキーを探すことが困難であり、その操作が難しいという問題がある。

【0004】一方、マウスは、移動とそのスイッチをクリックするだけで入力することができるが、文字等を入力することはできない。

【0005】そこで、本発明は上記問題点を鑑み、文字等の入力が容易にでき、かつ、その大きさが小さい情報入力装置を提供するものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明の請求項1の情報入力装置は、一または複数の入力用接点を有した入力手段と、前記入力手段の入力用接点の開閉時間の長短の組合せにより文字コードを特定し、この特定した文字コードを出力する文字コード特定手段とよりなるものである。

【0007】請求項2の情報入力装置は、請求項1のものにおいて、前記文字コード特定手段は、前記入力手段に入力されたモールス符号から文字コードを特定するものである。

【0008】上記情報入力装置であると、操作者は、入力手段に設けられた一または複数の入力用接点を操作して、その開閉時間及び長短の組合せで文字を入力する。すると、文字コード特定手段がその組合せにより文字コードを特定して、情報入力装置に繋がれたパソコンに文

字コードを出力する。

【0009】請求項2のものであると、モールス符号から文字コードを特定することができる。

【0010】

【発明の実施の形態】以下、本発明の第1の実施例の情報入力装置10について、図1及び図2に基づいて説明する。

【0011】この情報入力装置10は、その大きさがパソコン等に用いられるマウスとほぼ同じ大きさであり、情報入力装置10の上面には、1個の入力接点部12が設けられている。入力接点部12には、コード判別部14が接続され、コード判別部10からは、文字コードを出力するためのコネクタ16が接続線17を介して接続されている。このコネクタ16は、図1に示すようにパソコン18に接続する。

【0012】上記構成の情報入力装置10の動作状態について説明する。

【0013】コード判別部14は、入力接点部12の開閉時間の長短の組合せにより文字コードを特定するものであるが、本実施例の場合、操作者がモールス符号を入力すると、そのモールス符号に応じた文字コードを出力する。

【0014】すなわち、モールス信号は、長開信号、短開信号、長閉信号、短閉信号の4つの信号の組合せにより、複数の文字を構成するものであるため、操作者はこの4つの信号を、1本の指によって通常のモールス符号を打つように入力すれば、情報入力装置10からパソコン18に対し通常の文字コードが出力される。

【0015】第2の実施例の情報入力装置10は、図3に示すように、モールス符号のうち、短開閉信号を送る第1入力接点部20、長開閉信号を送るための第2入力接点部22とを有しているものであり、この場合には、2本の指で情報入力装置10を操作する。

【0016】第3の実施例の情報入力装置10は、短開信号を入力するための第1入力接点部24、長開信号の入力するための第2入力接点部、閉信号のための第3入力接点部28からなるものである。この場合には、3本の指で情報入力装置10を使用してもよいし、1または2本の指でこの3つの入力接点部24、26、28を操作してもよい。

【0017】なお、上記第1の実施例から第3の実施例では、パソコン18の本体とは別体に情報入力装置10を設けたが、情報入力装置10の大きさは小さいため、パソコン18の本体に内蔵してもよい。たとえば、ノートブック型パソコン等にはこの内蔵型が好適である。

【0018】さらに、情報入力装置10と、マウスとを一体に設けて、両者を共有してもよい。

【0019】なお、上記実施例では、モールス符号により文字コードを入力する実施例について説明したが、モールス符号に限らず、その他の符号によって文字コード

を入力する形式であってもよい。

【0020】

【発明の効果】以上により、本発明の情報入力装置であると、操作者は入力手段に設けられた入力用接点を開閉するだけで文字コードを出力できるため、多くのキーを操作することがなく、また、多くの指で操作をする必要もない。キーボードのように入力したいキーを探す必要もない。1本の指で文字コードを入力できるため、視力障害者であっても入力が容易である。入力接点を設けるだけでよいため、入力情報装置の大きさを小型化することができ

【図面の簡単な説明】

*

*【図1】本発明の第1の実施例を示す情報入力装置の平面図である。

【図2】同じく情報入力装置のブロック図である。

【図3】第2の実施例の情報入力装置の平面図である。

【図4】第3の実施例の情報入力装置の平面図である。

【符号の説明】

10 情報入力装置

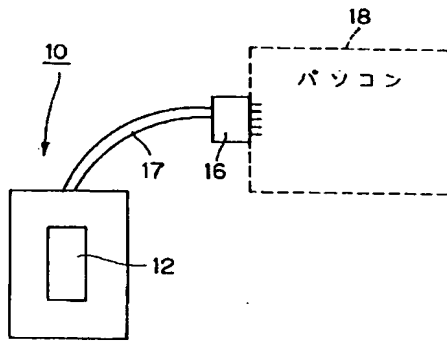
12 入力接点部

14 コード判別部

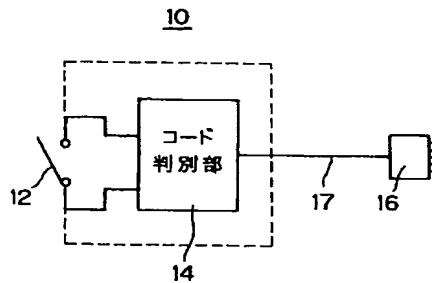
16 コネクタ

18 パソコン

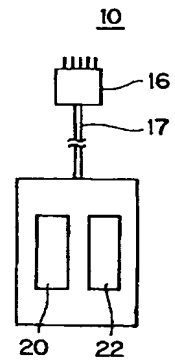
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

